

令和 6 年度（2024 年度）熊本市献血推進協議会議事録（要旨）

1. 開催日時

令和 6 年（2024 年）10 月 24 日（木） 15 時 00 分～16 時 00 分

2. 開催場所

ウェルパルクまもと 3 階 301・302 会議室

3. 出席委員（敬称略）

玉野井 優水、井芹 貴子、岡本 恭典、日隈 恵美子、中川 和徳、佐藤 実紗
以上 6 名

4. 議題

- (1) 令和 5 年度（2023 年度）熊本市献血推進事業報告
- (2) 令和 6 年度（2024 年度）熊本市献血推進事業計画
- (3) 各団体の献血推進活動等について
- (4) その他

5. 報告

熊本県内の献血状況について（熊本県赤十字血液センター）

6. 議事録（要旨）

○議題

- (1) 令和 5 年度（2023 年度）熊本市献血推進事業報告
事務局より説明。（会議資料 P1～2、参考資料 P3）
- (2) 令和 6 年度（2024 年度）熊本市献血推進事業計画
事務局より説明。（会議資料 P3）

【質疑応答等】

（議長）

（熊本健康）アプリは 1 回が 400mL でも 200mL でも 40 ポイントか。

（事務局）

400mL でも 200mL でも成分献血でもポイントが付与される。年間 3 回までで、400mL 献血の年間採血回数に合わせてあるもの。

(3) 各団体の献血推進活動等について

各委員からそれぞれの献血推進活動が報告された。(会議資料 P4)

① 熊本市医師会（玉野井委員）

令和 5 年度の実績として、各医療機関に対して、献血会場としての場所の提供や人的サポートに協力するよう働きかけや、市医師会・ヘルスケアセンター等会員に対して、献血協力の呼びかけ等を行っている。令和 6 年度の計画として、熊本市医師会館を本荘校区の献血会場として場所の提供と、職員や看護学生の献血協力の実施を予定している。

② 熊本商工会議所（川田委員）

欠席のため、会議資料に記載した内容を事務局より報告。

③ 熊本キャスルライオンズクラブ（井芹委員）

令和 5 年度は、各献血会場で呼びかけを、各ライオンズクラブ毎にお願いしており、キャスルライオンズクラブとしては、毎月 COCOSA 前で献血の呼びかけを献血者が少ないときに行った。令和 6 年度は、まずクラブのメンバーに献血がいかに大切かという事を知ってもらうため、米村所長にお願いしてクラブの例会の時に話をしていただいた。昨年度と変わらないが、本年度も COCOSA の前で毎月呼びかけをしている。高校、若年層の献血を増やすため、各クラブで力を入れてもらい、高校献血の時にはパンなどを配って多くの方に献血していただくようにしている。キャスルライオンズクラブでも、今後高校の方に力を入れようと思っている。

④ 熊本市地域献血推進連合協議会（岡本委員）（事務局から報告）

本協議会は、昭和 40 年 10 月に設立され、現在、熊本市内の 48 校区・地区の会員から成っている。献血バスによる校区献血の際に、校区の住民や企業、医療機関の献血への協力を得るため、事前の普及啓発や当日の血液センターへの協力や広報等のボランティア活動を行っている。

令和 5 年度は、総会、役員会、指導者研修会の開催の他、校区献血の実施（17 校区・地区で 19 回）、啓発品の作成・配布を行った。啓発品のオリジナルスナックについては、若年層に知っていただき、引いては校区献血に拡大できるよう、高校や各種専門学校、大学で実施される献血バスでの献血のお礼としても配布した。さらに、熊本市電の窓上に広告（ポスター）を掲示した。

令和 6 年度は、総会・役員会の開催、校区献血の実施、啓発品の作成・配布を行う。また、昨年度から開始した熊本市電の窓上広告の掲示について、今年度も引き続き実施する。さらに、本協議会が令和 7 年 10 月に創立 60 周年を迎えるため、その記念事業の企画立案を行う。

（岡本委員から補足）

献血の啓発・推進に使っている、4 種類のクリアファイルとオリジナルスナック（亀せん）を本日配布している。献血ルームでどの校区から献血に来たと申し出て頂けれ

ば、これを献血のお礼にプレゼントしている。また献血したいなという献血の動機付けに活用したいと思い去年から行っている。また、献血バスが来ない校区でも校区の献血者としてカウントしており、校区の励みにもなるかと思っている。ぜひ皆様にも「こういう物があるよ」と啓発していただければありがたいと思う。また来年が60周年になるので、先輩方が培ってこられた歴史に冠を添え、これからの10年に向かい、何かできないか、ご意見やご提案をいただければありがたいと思っている。こういう団体が集まっているので、難しく考えずに献血に行けるような啓発活動ができたらと思う。

⑤ 熊本市地域婦人会連絡協議会（日隈委員）

献血センターには月2回行っている。献血をしていただきたいので、移動採血車が来た時に各校区で皆に集まるように周知しているが、なかなか呼び集めても集まらない。献血可能な年齢の学生などに呼びかけるようにしている。

⑥ 熊本市社会福祉協議会（中川委員）

一つは、ポスター等の掲示であったり、啓発冊子等を社会福祉協議会関連施設に設置して啓発に努めている。熊本市社会福祉協議会では、日本赤十字社の熊本市地区本部の事務局を担っており、そちらの資金を活用して、先ほどの熊本市地域献血推進連合協議会様に助成金を交付する形で、サポートさせていただいている。

⑦ 熊本県学生献血推進協議会（佐藤委員）

お配りしている熊本県学生献血推進協議会の資料にあるように、主に呼びかけを中心に活動している。これからはクリスマスの時期に呼びかけたり、成人式の時に呼びかけをすることによって、若者の献血者数の減少が続いているので、少しでも啓発できたらと思っている。また各大学で授業の最後の時間を少しいただいたりして、セミナーなどを開催して献血の知識を少しでも持ってもらえるように活動している。

【質疑応答等】

（日隈委員）

以前、COCOSAでの献血の時に、味噌汁を作っていて、とても評判が良かった。とても喜ばれて、「月曜に必ず来るね」等、たくさん話したりしていた。献血ルームに大勢、人が来ていた。今は全然やっていないので、「今はなくなったの」と尋ねられる。もうどうにもならないのか。当会の会長も「そういうことをしないと広がらない」と言われる。

（岡本委員）

それについては、西部ガスのショールームを使って調理していたもので、西部ガスから借りられなくなり、実施しなくなった。

(4) その他

【質疑応答等】

(議長)

学生献血の年度ごとの献血者が増えているか、減っているかは、どのような感じか。

(佐藤委員)

令和 5 年と令和 6 年では大学により増減があり、バスの台数や日程が違うので単純に比較はできない。全体の合計数としては、(資料では)明日の実施分が抜けているので今年は少なく算出されている。

(議長)

貧血等があって献血できない方もいらっしゃるのか。

(佐藤委員)

それもあると思うが、体重が 400mL 献血で 50 kg なので、女子大等では体重が足りず、献血したくてもできない人もいたり、授業の時間が詰まっていて時間の確保ができない人もいる。

(議長)

今は、献血は 400mL が中心か。

(米村所長)

200mL は廃棄されることも多い。使用する方が 400mL をオーダーすることが多く、200mL を 2 袋で良いという所が使われたりもするが、200mL は積極的には採血しない。

(仁田尾献血推進課長)

1 日 1 人くらいあればという感じ。下通の COCOSA でしか行っていない。

(議長)

資料から見ると、10 代、20 代、30 代が少なく、減ってきている。若い人たちに対するアピール等は難しいのか。

(仁田尾献血推進課長)

若い世代に向け、1 つは高校献血の推進をしている。県内 75 校の内 37 校、約半分の高校に協力いただいている。全ての高校で献血していただけることを目標にしている。授業の合間の献血で難しいが、校長先生や養護の先生のご理解を得ることが必要。高校で 1 回実施すると、ハードルが下がり、バスやルームでの呼びかけに応えてくれやすくなる。また、20 代、30 代の方には特別記念品として充電ケーブルを渡している。若者の目を引き、きっかけは何でも良いので、まず献血をしてもらう。大学や専門学校でも推進している。バスを置けないところは献血ルームに来ていただき、バスを置ける所には、積極的に参加していただく、という対応を若年層に対して行っている。

(議長)

高校からは快諾をもらえるか。

(仁田尾献血推進課長)

継続して実施している学校は協力していただけるが、実施していない学校はなかなか難しい。

(米村所長)

文部科学省から、国公立大学の学長宛に献血に協力するようという通知があっている。高校の場合は年齢のこともあり発出するのは難しいが、高校生の年齢で献血をしても良いのかとなると保健の先生が反対される例が結構ある。校長先生だけではなく、保健の先生の理解も必要である。

西部ガスのショールームで味噌汁を提供していた話だが、ショールームに人が少ないので、献血と合わせて人を呼べれば WinWin ではないかと思うが、まだ頼みには行けていない。松山に視察に行ったときの献血ルームでは、年に数回、中華料理の協会が杏仁豆腐を 100 人分配ったり、パティシエの小さいケーキを配ったり、ボランティアで行われている。有名和菓子も配られて好評だったそう。飲食店の協会等と協力して、そういうことができれば、アピールにもなるのではないかと思う。

(岡本委員)

有償でも良いから貸してもらえないかと交渉したが、グループ全体で貸し出さない方針であり熊本だけとはいかないということだった

(日隈委員)

コロナなのでだめだったかもしれないが、料理教室を開くので貸し出せない、という話を聞いた。学生などの若年層も来ていて、将来の献血の話もしていた。みんな喜んでいた。

(岡本委員)

楽しみにされている方もいたので、残念。復活できればいいなと思う。

(米村所長)

(複数の団体で協力して)一緒に(お願いに)行くのはあるかもしれない。別団体への貸し出しができなくなったのかもしれない。

(井芹委員)

成分献血の体重制限はいくつか。

(仁田尾献血推進課長)

体重は男性女性で変わるが、女性は 40 kg から。

(井芹委員)

ふつう献血は 50 kg 以上だから、それ以下でも成分献血ならできるとお勧めする。

○報告(熊本県内の献血状況について(熊本県赤十字血液センター))

熊本県赤十字血液センター献血推進課長 仁田尾正高氏から、熊本県内における血液事業の現状について、資料に添って報告。

輸血を待つ患者さんの為にも血液を確保しなければならない。引き続き血液事業への

ご理解とご協力をお願いします。